

開会挨拶

医療安全全国共同行動 議長 高久史磨

皆さん、おはようございます。

「医療安全全国共同行動」議長を務めさせていただいております高久です。本日は、日曜日にもかかわらず朝からお集まりいただき、ありがとうございます。

「医療安全全国共同行動—いのちをまもるパートナーズ」は、2008年、わが国における医療安全の向上を目指して、日本医師会、日本看護協会をはじめ、多くの職能団体の呼びかけで始まり、すでに11年が経過しました。はじめは8つの行動目標でスタートしましたが、その後「安全な手術」、「医療従事者を健康被害からまもる」という医療従事者の安全の問題、「転倒・転落による傷害の防止」を加えて、合計11の行動目標を実践しています。

2013年には一般社団法人に移行し、新しい事務局を設けてさらに発展を続けています。その間、約70の会員団体、約340の参加登録施設のご支援で事業が拡大し、認知度も向上してまいりました。

2017年4月には「医療安全レポート」を月刊のかたちでスタートしまして、すでに32号をかぞえています。参加登録団体の皆さまからは、医療安全の推進に役立つと、幅広いご支持をいただいています。

また、昨年度からは、「e-ラーニングと集合研修を組み合わせた医療安全管理者養成研修」を開始しました。現場の業務で多忙な医療スタッフの方々が受講しやすい有用な研修方式として注目されています。

本日のフォーラムは、京都府医師会や地元の病院団体の皆さん方のご協力を得て、京都の地で開催いたしますが、「医療安全、これまでの壁を突き破る新たな第一歩を！」と題して、医療界全体が直面する緊急の話題を取り入れ、これからの医療安全のあり方が今日のフォーラムにおいて示されることと期待しています。

医療安全元年といわれた平成11年、すなわち1999年から20年が経過し、医療事故調査制度も今年の10月で5年目に入りましたが、現場では同様の医療事故が繰り返され、より一層の対策を立てる必要があると考えています。この調査制度をさらに育てることも含め、わが国の医療安全は、未だ、道半ばと言わざるを得ないと思います。

私たちは、真のパートナーシップをつくるために、多くの努力をしてまいりましたが、皆さま方に今後共、より一層のご協力をお願いしなければなりません。ご自身の職域や団体での取り組みに加え、「医療安全全国共同行動」にご参画いただき、わが国の医療安全向上のためにご尽力いただきますよう、この場を借りて心からお願いして、私からの開会のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。